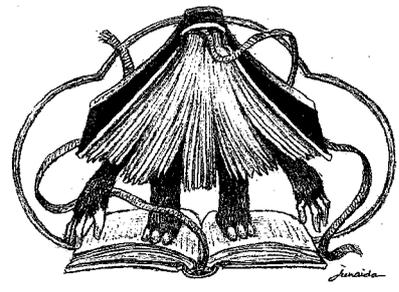


高野公彦選

ポピュリズムの言説に凭りかかられてすこしづつ液化してゆくわねら(西条市) 村上 敏之 朝起きて鮫口ひねって薬飲むどちろもないの だ見殺しのガザ (大和郡山市) 四方 護 サガン亡くB.Bも逝きたり小娘にかつて吹き 来し仏蘭西の風 (堺市) 丸野 幸子 ノーベルも呆れてるだろうマチャドよりメダ ル贈られ喜ぶ人 (栃木県) 川崎 利夫 平和賞他者の貰いしものでよい煮ても焼いても 食えない男 (船橋市) 佐々木美彌子 ☆十五年の介護終えれば待ちたるは喪失感と自らの老い (中津市) 瀬口 美子 介護鬱になりかけの我に何よりの励まし娘の 「旅行に行こう」 (東京都) 木村 美夏 娘ほどの年の師匠に習う書を持ち帰りはキ ャッパに貼る (宇治市) 小畑 裕子 客側に一から十まで操作させなせだか名乗る (札幌市) 田巻 成男 接客業と (札幌市) 田巻 成男 遊牧の民の織りたる絨毯に花・蝶・虫・鳥 命は満ちて (名古屋市) 磯前 陸子

【評】1 首目、国民に寄り添うという政府の言説に騙され、徐々に困窮していく自分たちを嘆く。塚本邦雄の「革命歌作詞家に凭りかかられてすこしづつ液化してゆくピアノ」の本歌取り。2 首目、水道も薬もない遠きガザの人々への同情。

朝日 歌壇 俳壇



＜日曜日のプローチ 40＞ junaida

小林貴子選

米三盆受けてたたずむ寒念仏 (三重県明和町) 西出 泥舟 スキーするかと思ふ杖使ふ方 (山形県) 十々

けた場面。二句目、二三句目、西半球・東半球なのに美味しそう。

永田和宏選

御巢鷹の犠牲者五百余の靴を並べたニュース ・キャスターが逝く (名古屋) 清水 芳洞 延命は無用と互いに拘せしがその約束を果す 身となる (新潟市) 渡辺 靖麿 行き帰り道を違える葬列の夫を抱きて椿橋渡 る (東京都) 鹿野 文字 お花見はだれとでも行く観梅は親しき人と静 かに歩む (大阪市) 岡 洵子 一両のディーゼル車ゆく奥羽線ふぶく院内越 えれば及位 (仙台市) 沼沢 修 あこが貝浸す後の影並ぶ寒の英虞浦朝焼けの 雲 (東金市) 山本 寒苦 子が親を選べたら「無期懲役」にならぬ人生 歩めたらどうに (佐久市) 五十嵐芳孝 朝起きて隣の人が死んでいったそれだけ語りし 祖父のシベリア (横浜市) 出井美恵子 元日に十日遅れて初詣シャッター街の参道を 行く (東京都) 佐藤 仁志 八分と十九秒前太陽を出して光にぬくもる老 猫 (神戸市) 松本 淳一

【評】清水さん、ニュースステーションが始まった年、御巢鷹の惨事の特集に久米宏は五二〇の靴をスタジオに並べた。賛否両論あったが、ニュース番組に革命をもたらししたキャスターではあった。渡辺さん、約束は約束だが辛い役割が回ってきた。

川野里子選

天と地が雪の破線に結ばれてラマーズ法の呼 吸激しき (長野市) 原田 浩生 不意打ちにやさしくすれば警戒しミーアキャ ャットみたいになる夫(さいたま市) 齋藤 紀子 柚子ふたつ湯船に浮かべ老妻といまは静かな 入浴をする (小諸市) 星野 直人 給食もない冬休み子ども食堂に賑わいの増す 慶事のごとく (千葉市) 岡部 統子 シャオピンとトルコケバブが向きあって参拜 の人を呼び込む正月 (富士宮市) 白井 幸余 看病も介護もなしで逝きし母そんなわたし は頼りなかった? (前橋市) 町田 香 波風は立てたたくないと会議に出て暴風暴雨を 浴びて帰宅す (滋賀県) 木村 泰崇 忘れられ砂にまみれたシャベルにはきちんと 書かれたことの名前 (横浜市) 桜田 幸子 コミ箱にストンと入るゴミがある俺は嫌だな 素直なゴミは (江別市) 長橋 敦 どのように泳げばいいか分からない年をとっ ても私らしく (奈良市) 浦城 亮祐

【評】一首目、雪の降りさまと呼吸が響き合い、切迫する出産が神話のようだ。二首目、夫の様子が何とも可笑しい。三首目、落ち着いた愛に柚子が香る。八首目、書かれた子供の名前が生々しい。十首目、結局、不器用が「私らしさ」なのだ。

佐佐木幸綱選

☆十五年の介護終えれば待ちたるは喪失感と自らの老い (中津市) 瀬口 美子 つばぎの黄のつらなれる小路へと舞妓二人 が消えてゆきたり (長野県) 千葉 俊彦 会議中にノンアルコールビール飲む新入社員 ついにあらわる (上尾市) 関根 裕治 夜更かす私たちに意思がある勝手に更ける 夜なんてない (鹿児島市) 高坂 智香 大人だつて赤鉛筆の花丸をもらえば嬉しい書 写の教室 (東京都) 村上ちえ子 旅終えて湘南の地に戻ってもスマホの中に残 る白雪 (藤沢市) 小林 竜太 繋ぎ目のプラスチックが劣化してステンレス 製物干し了る (小田原市) 岩淵 和信 彼氏とは週一ペースで会ってますサークルみ たいな頻度でいいね (流山市) 汐入 首佳 水かきの足を跳ね上げ羽ばたいて堰を越えゆ く冬の鳥鳥 (八尾市) 水野 一也 今のわたしを知らぬわたしが笑ってるむかし のビデオ何かせつない (枚方市) 金光 久子

【評】第一首、十五年も介護生活を続けてきた作者。お疲れさまと声をかけた。第二首、街角の風景をスナップ写真のように切り取った京都ならではの一首。第十首、思いがけず眼前した昔のビデオ。切ない気分が分かる気がする。

うたをよむ わたしの汀子俳句 マごとに50〜70句を提示し、視聴者が好きな句に投票する方式。毎回150人から200人の汀子ファンが参加した。各テーマで1位だった句を紹介したい。 「音」というテーマでは「蛇穴を出て靴の音風の音」。「食」は「白魚の命の透けて水動く」。「月」は「月かげにみな美しき庭のもの」。「山」は「一山の花の散り込む谷と聞く」。「庭」は「三椏の花三三が九三三が九」。「青」は「長男と競ひ泳ぎて負くまじく」。「人間関係」は「長き夜の苦しみを解き給ひしや」。「旅」は「ミュンヘンのビールにしばし禁酒解く」。「色」というテーマでは2句が同点1位だった。赤ばかり咲いて淋しき牡丹かな」。「日の影の桜も吉野山」。「雨」は3句が同点1位。「水泳のはじまる日より雨ばかり」。「時雨れても時雨れても旅果てざるは」。「雨止んで風新涼に入れ替る」。「感情」「新しさ」の2部門で1位だったのは、朝日俳壇、虚子選のこの句。〈今日何も彼もなにもかも春らしく〉 (俳壇担当 西条敏)

長谷川耀選

戦争をひとづつふたつと手毬唄 (久留米市) 塚本 恭子 雪国の天の花なれ大日輪 (山形県) 十々

代の手毬唄。二席。雪人間。晴れ晴れと「老に」と言ってもいい。

大串 章選

生も死も空に溶けゆく日(向かい) (越谷市) 新井高四郎 図書館へ寝に来る人の冬帽子 (山形県) 十々

生死のことなど忘れてしろい。俳諧味あり。んに語り合う人たち。

高山れおな選

雪女我住む階のボタン押す (横浜市) 座間 敏正 兵卒の父は二十歳の大雪原 (山形県) 十々

中でこれは布さ一番。すなら青春俳句というはぐさを的確に表現。

第26回現代俳句大賞。現代俳句協会主催。大阪府の俳人・坪内稔典さん(81)に決まった。ウィットに富む平易な新しい俳句によって、現代俳句の地平を大きく広げたのが受賞理由。若い世代の俳句や評論を発表する拠点として「現代俳句」「船団」などを組織し、新しい才能を育てた功績や、近代俳句史研究で多くの論考を発表した点も評価された。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます。(選評2作品まで) QRコードから